

10月22日(日) 第二礼拝「38年間病を患っていた人」 ヨハネ5章1-9節

ユダヤ人の祭り(五旬節)の頃、羊の門の近くにあるベテスダ(慈しみという意味)という池には沢山の病人がいました。そこに、38年という人生の大半を病で苦しんだ人がいました。38年とは、イスラエルが荒野で意味もなく彷徨っていた年数です。しかし、イエス様との出会いで、彼の人生は変えられました。

第一番目、イエス様が訪れてくださいます。イエス様が「よくなりたいか？」と聞かれた時、彼は「水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。」と言いました。しかし、イエス様は彼の絶望を希望に変えてくださいました。イエス様が「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」と言われた通り、彼は床を取り上げて歩き出しました。苦しみや絶望の時こそ、主は近くにいてくださいます。そして、主の声はいのちを与えます。ヨハネ5:25「死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。」聖書は記録された神の言葉、ロゴスです。その御言葉が語られる時、それはレーマとなり、私達の霊と魂はかき回され、奇跡が起こるのです。

第二番目、献身や従順する心が必要です。生贄で捧げられる羊がベテスダの池で洗われたように、私達は自分を主に捧げるために不従順な心や頑固な心を洗う(悔い改める)必要があります。私達が洗われる時、御霊が語ってくださいます。そして、御霊による主の語りかけを聞くためには、毎日聖書を読み、それを祈って口ずさむこと(御言葉の約束を握って祈ること)、また、御言葉が私達の内になるように祈り、思い描くことが重要です。このように、御言葉を祈る時、御霊が働き、私達に信仰を与えてくださいます。これが霊とまことの礼拝です。12年長血を患っていた女性は、イエス様の御業を聞いて、イエス様の着物を触ればきっと治ると信じ、その通りになりました。私達も御言葉を握って祈りの生活をしましょう。

また、夢と幻でも語られます。創世記15:1 失望しているアブラハム(当時85歳)に、主は幻で語られました。私(牧師)自身もまた、主の御座から油が注がれる幻が与えられました。この解き明かしは、詩篇133:1-3 頭とはイエスキリスト、ひげとはメッセージを伝える人々(牧会者)、衣のえりとは中間世代、足は次世代(子供)です。教会のかしらであるイエス様から、教会の全世代に至るまで油が注がれ、教会が一つとされ、日本全体にまで流れていくのです。この油はとこしえのいのちの祝福が約束されています。38年間患った病人の癒しのように、教会は癒され回復する時が来ていることを信じます。

第三番目、聖霊様の流れを反対してはいけません。38年の苦しんだ病人に本当の安息が与えられました。しかし、それは安息日でした。仕事をしてはいけない、床を取り上げてはいけない、そのような固定観念、人の教え、律法主義は聖霊様の流れを止めてしまいます。その結果リバイバルできずに孤立してしまいます。しかし、私達は聖霊様の油注ぎを受けて、霊とまことによって礼拝する者であり、日本のリバイバルのために立ち上がるキリストの花嫁です。アーメン！